〔駒沢女子大学　研究紀要　第17号　p. 39 ～ 47　2010〕

新科目「英語ワークショップ」の試み

井　戸　桂　子*，太　田　　洋*
根　本　貴　行*，杉長ジャッキー**

Interim Report on New Course : “English Workshop”

Keiko IDO*, Hiroshi OTA*
Takayuki NEMOTO*, Jackie SUGINAGA**

Abstract

This is an interim report on a new course “English Workshop.” It is aimed at catering to various students’ levels and needs. It is a small tutorial class where each student improves their English proficiency by learning individually with the help of teachers. In class, a Japanese teacher has a tutorial with each student. The teacher identifies each student’s interests and needs and suggests ways of learning, or recommends some study materials.

There are two core activities in each class : talking with the native teacher, and extensive reading. Each class of eight students take turns to come to interact with the native teacher for about twenty minutes. Other than the core activities, each student will be encouraged to learn English on their own, at their own pace. Outside class, they are required to learn English and take notes of what and how they learn in their learning diary. They are also required to keep a diary in English at home.

Overall, it was found that the students saw some progress in their English proficiency and their motivation increased.

1．はじめに

大学レベルにおける英語教育改革の問題点としてしばしば指摘されていることの一つに、「学生の英語力が多様化しており、一律に対応できないこと」がある（ベネッセ教育開発センター、2010）。

本学に於ける英語教育改革は、必修授業での能力別クラスを設定することにより、また「英会話」、「スピーチクリニック」、「日本紹介の英語」等、学生の英語力並びにニーズの多様化に対応する科目の設置をすることにより、一定の効果を上げてきている。

しかしこれらの科目が少人数で行われたとしても、いずれも一斉授業形式であり、多様な学生の英語力に対応するには限界があることも事実である。

そこでその解決策の一つとして、少人数クラ

*人文学部 国際文化学科
**駒沢女子大学 非常勤講師

スの中で、教員が学生と一対一のtutorialを行い、各学生の英語のレベルとニーズに合わせ学習を進めることを目的とした新科目「英語ワークショップ」を平成22年度より開講するに至った。

この授業では学生の英語力を的確につかみ、それぞれの学生の満足度とやる気を高めることを目標とした。

以下、今年度開講した新科目の内容と実施状況を報告したい。

２．授業構成

この授業は、日本人教師３名とネイティヴ教師１名の計４名が担当する。日本人教師はそれぞれが１クラス８名のクラスを受け持つ。教員はtutorial（個別相談）を通して各学生に学習法についてアドバイスを行い、学生は先生と決めた学習法にしたがって授業中並びに家庭で学習を進める。

授業中に学生は、tutorialと各自で進める自主学習以外に次のようなコア・アクティビティーを行う。

・ネイティブ教師と４人一グループで20分話す。
・多読
・ライティング（日記）

家庭学習として学生は、日記とそれ以外にもtutorialで相談して決めた学習を行う。

３．授業内外の活動の理論的裏づけ

それぞれの活動は、学習法を見つけてもらうためのきっかけとして、また英語習得を促進する活動として計画された。活動を決めるにあたっては、実践的な言語習得には欠かせない条件―インプット、アウトプット、インタラクションが豊富にある学習環境の中で、言語習得の３要素である「形式・意味・機能」、つまりどのような形、意味でどのような場面・機能で使われるのかの結びつきを学ぶこと（和泉、2009）―ができるように配慮した。

3.1　多読

英語習得に必要なこととしてインプットは欠かせない。学生たちに習得を促進する理解可能なインプットを与えることが何よりも大切である（Krashen, 1985）。多様なレベルの英語力の学生の実情に合い、理解可能なインプットを豊富に与える活動として多読をコア活動として取り入れた。

具体的にはOxford University PressのBook Worms Libraryなどのgraded readersを200冊ほど用意した。学生は週に１～２冊借り出して、通学途中などで読むこととした。

3.2　日記

アウトプットの一つとして日記を書くことを活動の一つとした。さらに日記に書いた内容や文章を、ネイティブ教師と話す活動の際に使うことを奨励した。このことにより、学生は日記を書く目的がより明確になり、また書いたり、書いたことを発話することにより、表現したいことと表現できることのギャップに気付かせることができ、言語習得を促進する一助になる（Swain, 2005）。

3.3　ネイティブ教師と少人数で話す活動

履修学生の一番の希望は「ネイティブの先生と話せるようになりたい」である。この希望に応えるために、少人数で多くの時間話せるようにスケジュールを設定した。また、ただ話すだけで終わらないように次の点に気をつけた。教師にとって学生の発話内容が不明な場合、あるいは学生にとって教師の発話が理解できない場合に、相互理解のための意味交渉（明確化要求など）をして、会話内容の理解を促した。すなわち、「理解不可能なインプット」が「理解可

能なインプット」になり言語習得を促進するよう留意した（Long, 1996）。

また学生の発話の修正には、リキャスト（Doughty & Varela, 1998 ; Long et al, 1998 ; Mackey & Philip, 1998）を行うことで、学生に誤りに気付かせ、形式に意識が行くように心がけた。

学生にはネイティブ教師と話をしている最中、それを IC レコーダーで録音させ、会話終了後、各自 IC レコーダーを聞き、「振り返り」を行わせた。これにより自分が発話でつまずいた、うまく言えなかったことを自分で調べたり、確かめたりして、形式に意識を向けさせた（Williams, 2005）。

3.4　個別学習：Learning Diary の記録

成功した学習者を分析した竹内（2007）は、彼らの特徴の一つとして「小刻みで、達成感を感じられる目標設定と具体的な計画」を上げている。インプット、アウトプットの量を増やすためにも、授業外での学習が欠かせない。そこで自立した学習者になることをめざし、tutorial で教師との相談で各自が決めた学習を家庭で行った。次の時間までの一週間、学生は learning diary に自分の学習内容、感想、相談の内容を記録して、自分の伸びを確認するということを行った。この learning diary を見ながら、教員は学生と tutorial をするので、授業内外の学習が総合的に把握でき、指導もより効果的となる。

以上の各活動は、お互いに関係を持たせ、有機的につながり学習効果を上げるように行った。

４．１時間の授業の流れ

学生の学習状況によるが、典型的な一時間は次のように行った。

4.1　全体指導

・授業開始前に前時に学生と話した内容を基に作成したハンドアウト（Useful expression）をネイティブ教員が学生に配布する。前時の復習であるが、その時間にも使用を促した。（資料１参照）

・その時々に応じて、必要な英語学習法をハンドアウト等を使用して紹介し、説明する。（資料２参照）

（資料１）　ある日の Useful Expressions（一部）

English Workshop　Newsletter #4 (May 20th, 2010)

Useful expressions　　井戸・太田・根本・Jackie

Jackie先生とのおしゃべりでみなさんが言いたかった表現を集めました。
少しずつ自分のものにしていきましょう。

What did you do during the week?	I met some friends from my old high school.
What did you get up to at the weekend?	I met my boyfriend.
	I hung out with some friends.
How long have you been (going out) together?	For about nine months.
What about you? Do you have a boyfriend?	**I'm not _____ at the moment**
	going out with anyone
	I went to see Alice in wonderland at the weekend
How was it? / What was it like?	It was good. I really enjoyed myself.
What did you think of it?	I thought it was great / It was just O.K
Would you recommend it?	Yes, I'd recommend it.

（資料２） 4/22に配布した英語学習法ハンドアウト

英語ワークショップ学習法

4/22/2010

０．　英語ができるようになるために大切なこと

大量のインプット（聞く・話す）と少量のアウトプット（話す・書く）

Ⅰ．学習法を決める際に考える２つのこと

―（長期・短期）目標は、、、？→

―どのくらいの時間・量行う？　→

Ⅱ.目標例

・自己紹介が１分間できる

・自分の好きな話題について Jackie 先生と１分間おしゃべりができる

・英語の日記を毎日３０語書く

・英語の字幕を読みながら（字幕なしで）映画を理解できる

・英語の歌を感情を込めて一曲完全に歌えるようになる

・資格―「TOEIC のスコアを伸ばす。」「英検～級を取得する」

Ⅲ．　Learning Diary

次のことを書き、一週間の学習をしましょう

―目標　―目標を達成するための学習法　―どのくらいの時間・量行ったか

―日記（毎日３行でも書くと違ってきます）

－学習をしてみてのコメント

＊その日に行った英語学習の内容・時間・感想等、英語学習に関することはすべて Learning diary に記録します。

Ⅳ．学習法の例

Input―たくさん聞く・読む（ここが基本）

・CD を聞いて理解

―NHK ラジオ講座

・読んで理解

― 大まかなことをつかむための読み（Catch a Wave, 週刊 ST など）

約する。

・語彙（単語・熟語）を増やす　―９０秒クイズ―「自己表現お助けブック」

・文法の理解(聞く・読む・話す・書くために文法を復習する)

（資料３） ネイティブ教師との会話を生かす学習法のプリント

English Workshop　Newsletter #1 (May 13th, 2010)

Jackie 先生とのおしゃべりで力をつける３つの方法

井戸・太田・根本・Jackie

「Jackie 先生とのおしゃべり」、楽しいですね。でもただ話しているだけでは力はつきません。今日は力をつける方法を３つ教えます。それは、、、

自分がうまく言えなかったとき、なんとか単語だけで言ったとき、Jackie 先生は、自分の言いたいことを言い直してくれるときがあります。
そのときに、Yes というだけではなく、

１．Jackie 先生が言い直してくれたことをその場で繰り返すこと**です。**

これをすると繰り返した文が頭の中に残りやすくなります。おしゃべりが終わって IC レコーダーを使って振り返るときに、

２．言い直してくれたことをう一度聞き、Learning Diary に書く＋音読をする

これでさらに頭の中に残りやすくなります。
さらに、、、

３．日記に使おうとする。次回 Jackie 先生と話すときに使うことです。

この３つやってみましょう！力がぐーんとつきますよ。

（資料４）　単語を増やすため学習法のプリント

English Workshop　Newsletter #7 (June 3rd, 2010)

単語を増やす学習法　　井戸・太田・根本・Jackie

英語をよりよく話す・書くためには、単語を増やしたいですね。（もちろんよりよく聞く・読むためにもです。）さて今回はその方法を教えます。

Step 1. Learning Diaryの後ろを「自分用単語帳」にする。（一番後ろのページから前に進めていく）
項目は、日本語―英語（単語だけでなく、例文で載せる）

Step 2. 自分が英語で何かをした時（例.日記、Jackie先生とのおしゃべりの振り返り、多読、自学、問題集での勉強）、「あっ、この単語（表現）また出てきた。自分のものにしたいなあ。」「あっ、この単語また出てきた。意味は何だろうなあ」と思ったときに、その単語（表現）を自分の単語帳に書く。

Step 3.一週間に（最低でも）一度自分でテストする。（日本語を見て、英語が言えるか）

Step 4.先生にテストしてもらう。

単語の力を伸ばすための多読―３つの方法

１．毎週最低でも一冊の多読の本を読む

２．１つのレベルで、最低５冊の本を読んでから、次のレベルに進む。

３．レベルを高くしたら前のレベルより多くの冊数を読み、１年間に最低１５～２０冊、できれば３０冊を読む。

4.2　Tutorial

・学生は一人ずつ担当の日本人教員のところに来て、learning diary を見ながらこの一週間学習してきたことを話し、今週どのようなことをするのかを教員と相談する。教員は学習方法や使用教材などについてアドバイスをする。

・家庭で書いてきた日記を先生に提出する。

4.3　Individual learning

・学生は個別に学習を進める。

4.4　Core activity : 多読 Extensive reading

・学生は各自自分のレベルと興味に応じて本を選び、自分のペースで本を読む。本のタイトル、読んだ語数、感想を learning diary に記録する。

4.5　Core activity : talking with the native teacher (Jackie).

＊話す前

各自何を話すかを考える。

＊話している間

４人一グループで話す。間違えを恐れず、自分の持っているものをすべて使うつもりで話す。話はIC recorderで録音する。

＊話した後

Jackie先生と話したことを録音したIC recorderを聞き返したりしながら、振り返る。話したかったけれど話せなかったこと、自分で役に立つと思った表現をlearning diaryに書く。

4.6　Optional

・さらに話したい人はJackie先生のところに行って話す。

4.7　自分用単語テスト

・授業内外の活動で自分にとって役に立つ、覚えたいと思った単語をlearning diaryに書く。その中から10単語を厳選し、用紙に書き、「自分用単語テスト」を作成する。授業終了時に担任にテストを渡し、次の時間の最初にテストをもらい、自分でテスト問題を解く。

4.8　まとめ Consolidation

・学生は各自授業でしたことを振り返り、感想を書く。また来週までに自宅ですることをlearning diaryに書く。目標達成を図るためのチェック欄も付す。

以下は「６月３日の１時間の流れ」である。

(授業前)	.(Useful Expressionsを配りながら)Jackieと話すことを	Newsletter#　(Useful Expressions)

	太田グループ	教師が行うこと
10:40-10:50	(全体指導) 1. 単語の増やし方(太田担当)2. ここまでの振り返り ☆学生に自分用単語テストを作成させ、授業最後に提出　☆振り返りシートを最後に提出	Newsletter #7 & 8(太田担当)
10:50-11:10	Talking with Jackie	
11:20-11:30	ICレコーダーを使って各自振り返り	
11:30-11:50	4月からここまでの振り返り	
11:50-12:05	多読・自学	
12:00-12:10	全体指導(来週までに自宅でやってくることを決めて、learning diaryに書く＋チェック欄をつける	多読の本を借りることを奨励する

	井戸グループ	
10:40-10:50	(全体指導) 1. 単語の増やし方(太田担当)2. ここまでの振り返り ☆学生に自分用単語テストを作成させ、授業最後に提出　☆振り返りシートを最後に提出	Newsletter #7 & 8(太田担当)
10:50-11:10	4月からここまでの振り返り	
11:10-11:30	Talking with Jackie	
11:30-11:40	ICレコーダーを使って各自振り返り	
11:40-12:05	多読・自学	
12:00-12:10	全体指導(来週までに自宅でやってくることを決めて、learning diaryに書く＋チェック欄をつける	多読の本を借りることを奨励する

	根本グループ	
10:40-10:50	(全体指導) 1. 単語の増やし方(太田担当)2. ここまでの振り返り ☆学生に自分用単語テストを作成させ、授業最後に提出　☆振り返りシートを最後に提出	Newsletter #7 & 8(太田担当)
10:50-11:10	4月からここまでの振り返り	
11:10-11:30	多読・自学	
11:30-11:50	Talking with Jackie	
11:50-12:05	ICレコーダーを使って各自振り返り	
12:00-12:10	全体指導(来週までに自宅でやってくることを決めて、learning diaryに書く＋チェック欄をつける	多読の本を借りることを奨励する

11:50-12:00	Talking with Jackie (Part 2)―振り返った後、さらに

５．評価―ある生徒の振り返りから

本報告は始まって半期がたった時点で中間報告にあたるので、どのような英語力がついたのかについては今後測定を行い、報告をしたいと考えている。今回は、ある一人の学生が「英語ワークショップⅠ前半振り返り」（６月上旬実施）と「英語ワークショップⅠ後半振り返り」（７月下旬実施）に書いた記録・記述を項目ごとにまとめて、紹介したい。

① 目標

前半― 一週間日記を習慣づける。

後半― TOEIC or 留学に役立つように、英語に触れる。

② 多読

前半―読んだ総語数9900語

感想　一回読み出したら面白くて、たまりません！　レベルに合う本からたくさん読みたい！

後半―読んだ総語数40,471語

感想　最初は「Starter」でも読むのに苦労したけれど、慣れれば「Level 1」もすらすら読めた！　Level 2,3,4…もっと読みたい！

③ 日記

前半―平均語数　約70語

感想　１日１ページ書く癖がついたので、今度からもっと日記の内容をたくさん書きたい！

後半―平均語数　約130語

感想　たくさんかけたが、同じフレーズ、同じ構文ばかりが目立つので、いろいろな表現を使えるようになりたい。

④ ネイティブ教師との会話

全体として伸びたと思う。Jackie 先生が正しい言い方をそのつど教えてくれるので、身についた。

⑤自分で決めた学習

・行ったこと　・映画を見る　・リスニング（オバマさんの演説、ドラマ etc）

・工夫・努力したこと

英語を楽しむ！　好きになる！　ができるように興味のあるものから学習が出来てよかった。

⑥ 前期を振り返って

もっと英語を好きになった！　今回前期では楽しんでいろいろな面で英語に触れることが出来た。今後は楽しさ＋自分の技術（文法など）を身につけたい。

（文章は学生が書いた原文のまま）

６．今後の課題

前期は初めての試みであり、手探り状態で学生の様子を見ながらの実践となった。多くの学生は前述した学生と同じような感想を持っている。今後はより多くの学生に合う活動、学習法を探して、学生の動機を保ち、自立した学習者へ育てるための科目としたい。

参考文献

Doughty, C., & Varela, E. (1998). Communicative focus on form. In C. Doughty & J. Williams. (Eds.), *Focus on form in classroom second language acquisition*. New York : Cambridge University Press.

Krashen, S. (1985). *The Input Hypothesis ; Issues and Implications*. London : Longman.

Long, M. (1996). The role of the linguistic environment in second language acquisition. In W. C. Ritche & T. K. Bhatia (Eds.), *Handbook of second language acquisition*. San Diego : Academic Press.

Longm M., Inagaki, S., & Ortega, L. (1998). The role of implicit negative feedback in

SLA : Models and recasts in Japanese and Spanish. *Modern Language Journal*, 82, 357-371.

Mackey, A. ,& Philip, J. (1998). Conversational interaction and second language development : Recasts, responses, and red herrings ? *Modern Language Journal*, 82, 338-356.

Swain, M. (1985). Communicative competence ; Some roles of comprehensible input and comprehensible output in its development. In S. Gass & C. Madden (Eds.), *Input in second language acquisition*. Cambridge, MA : Newbury House.

Williams, J. (2005). Form-focused instruction. In E. Hinkel (Eds.) Handbook of research in second language teaching and learning. Mahwah, NJ : Laurance Erlbaum.

和泉伸一（2009）『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』大修館書店

竹内理（2007）『「達人」の英語学習法　データが語る効果的な外国語習得法とは』草思社

ベネッセ教育開発センター（2010）「大学における英語教育の改革等に関する調査【報告書】」ベネッセコーポレーション